

3. 長崎原爆被爆者の精神的影響に関する調査

1. 目的

原爆被爆者の精神的健康状態を総合的に評価し、被爆による精神的・心理的影響を明らかにすることを目的に疫学調査を実施した。

2. 対象と方法

平成6年10月4日から平成7年1月31日までの期間に、長崎原爆健康管理センターにおいて被爆者健診を受診した長崎市在住の原爆被爆者を対象に調査を実施した。

1) 一次調査

GHQ (General Health Questionnaire) - 12項目質問紙により行なった。

2) 二次調査

GHQ-12項目の得点に応じてスクリーニングを行なうことにより、一次調査対象者の中から二次調査の対象者を選んだ。対象に選ばれた人のうち調査への協力が得られた人について、CIDI (Composite International Diagnostic Interview)による面接調査を実施した。同時に対象者の基本属性に関する調査及びGHQ-30項目質問紙調査を実施した。

3) 三次調査

二次面接調査の回答者について、精神科医師がICD-10/DCR (またはDSM-III-R)による診断を行なった。

3. 結果

1) 一次調査は4,665人から回答を得た。男性の平均年齢は62.61歳(標準偏差8.41歳)、女性の平均年齢は64.15歳(標準偏差8.58歳)であった。

2) GHQ-12項目の得点が0～1点の低得点であったひとは3,776人(80.9%)、2～3点の中得点であったひとは480人(10.3%)、4点以上の高得点であったひとは409人(8.8%)であった。図1に被爆者と内科外来患者のGHQ-12項目高得点者割合の比較を示す。4点以上の高得点者は被爆者では男8.9%、女8.7%と内科外来患者(男20.1%、女18.7%)に比べ少なかった。

3) 二次調査は172人について実施した。図2に被爆者と一般住民のGHQ-30項目高得点者割合の比較を示す。8点以上の高得点者は被爆者では男9.0%、女10.9%と一般住民(男9.8%、女13.7%)とほぼ同じであった。

4) 被爆距離とGHQ12項目得点の関連を図3に示す。2 km以内の近距離被爆者にGHQ-12項目高得点者が多くみられた。

[本研究は International Conference on the Mental Health Consequences of the Chernobyl Disaster : Current State and Future Prospects (平成7年5月25日, キエフ), 第91回日本精神神経学会総会 (平成7年5月19日, 長崎) 及び第38回日本放射線影響学会(平成7年11月10日, 千葉)において発表した。]

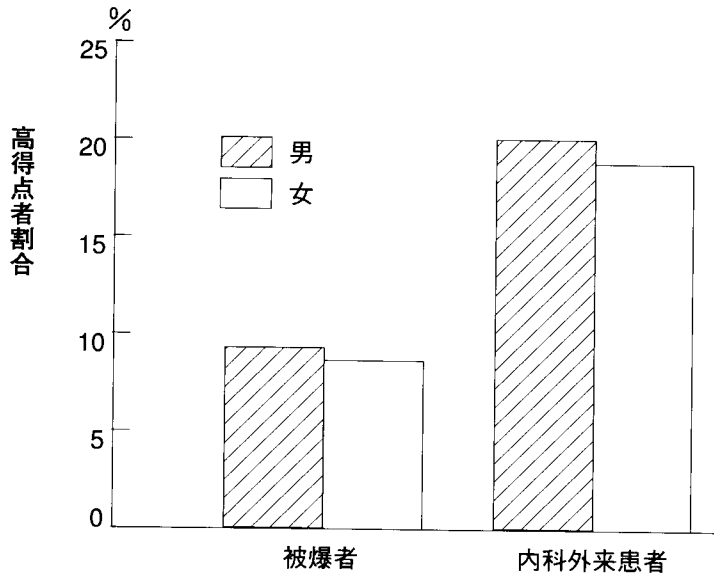


図1 被爆者と内科外来患者のGHQ12項目
高得点者（4点以上）割合の比較

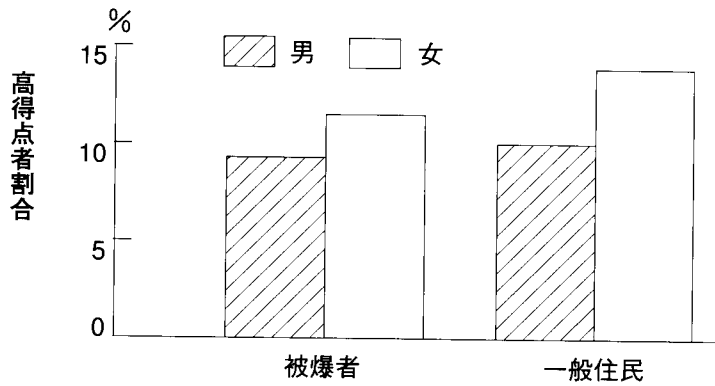


図2 被爆者と一般住民のGHQ30項目
高得点者（8点以上）の比較

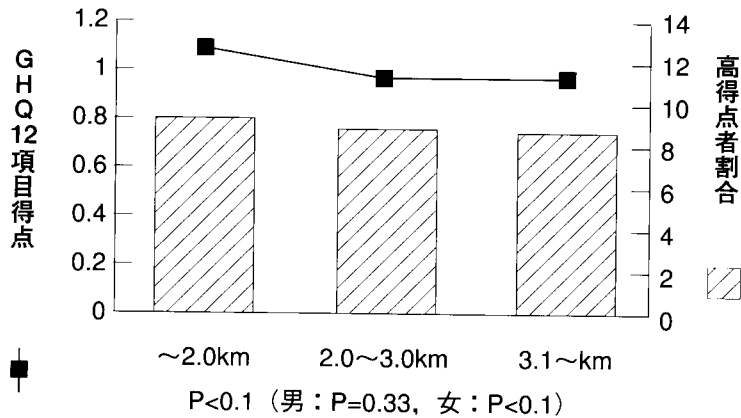


図3 被爆距離別GHQ-12項目得点